

事業活動実績報告書

施設名	東江幼稚園
教育理念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる
事業の区分 (5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
1 事業名	春から冬までの田んぼ活動～①育てる②味わう③利用する～
2 実施期間	令和5年4月1日 ～ 令和6年3月27日

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年4月8日 ～ 令和5年4月21日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>R5年3月26日にお米の種まきをしていて、その苗に園児と一緒に水やりをしながら園庭で育てた。日々大きく生長する姿を子どもたちと確認できた。 4月21日には十分育ったので、車に積み込み田んぼへ運んだ。(車への積み込みなどは園児も一緒に行っている)</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 5月 9日 ～ 令和5年 5月16日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>園庭で育てた水稻の田植を流山市田んぼでおこなった。 (5回に分けて)①5/9やま組親子27組②5/11いなほ組親子27組③5/12そら組親子26組④有志の親子10家族⑤5/16さくら組親子25組 親子で田んぼに入り、土の感触を感じながら、苗を植えていった。 田植えにあたって、お米クイズなどを行い、興味関心を深めていった。</p>	
	<p>(取組日) 令和 5年5月31日 ～ 令和5年 9月 4日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>希望者の田んぼ除草作業体験を行った。(5/27, 5/31, 6/7, 6/11, 6/14, 6/17, 7/5, 7/8) 田んぼに入り草をとっていると、オタマジャクシやヤゴ、その他水生生物やテントウムシ、蜘蛛、ハサミムシ、オケラ、カモ、スズメ、燕など様々な生き物を観察することができる。稲作が豊かな自然環境の保持に役立つことを実感できた。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 9月5日 ～ 令和5年 9月11日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>稲刈り活動 親子で収穫体験。のこぎり鎌を使って稲刈り(5回に分けておこなった)①9/5やま組親子26組②9/6いなほ組親子24組③9/7そら組親子28組④9/9有志の親子8家族⑤9/11さくら組親子25組 5月に植えた稲が太く大きな束となっていた。自分たちで収穫したので、大変さとありがたさがわかる。</p>	

3 取組概要	<p>(取組日) 令和5年9月 15日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>お米の脱穀。 収穫したお米を園庭やホールで干して乾かして、9/15に脱穀を行った。年長児が代表して作業をして、年中以下はその様子を見守った。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 10月19日 ~ 令和5年 11月 10日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>食べる。味わう経験。 秋に収穫し脱穀し、精米した新米を炊いて、おにぎりにして味わう。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 12月 2日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>利用する経験。 餅つき 秋に収穫したお米を使用して、餅つきを行う。米が、蒸されてごはんになり、それが搗かれて、お持ちになる様子を体験、見学した。保護者父母のボランティア参加もあり、保護者も体験をすることができた。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年 12月 14日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>利用する体験。 しめ飾りづくり 田んぼでとれた稲を脱穀して残ったワラを利用して、正月飾り、しめ飾りづくりをおこなう。 基本的には、見学して、ワラが、縄になる工程を見たり、関わって丈夫になることを体験した。 幼児にワラを縄を組むことは難しいが、年長を中心に挑戦する子が各クラス5、6名いた。</p>	
	<p>(取組日) 令和5年9月 23日 ~ 令和6年 3月24日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p> <p>次年度に向けての田んぼ作業体験各種 基本的に土曜日もしくは、日曜日に行い希望する親子が参加。(9/23, 11/23, 1/20, 2/10, 3/2, 3/24) 田起こし、ワラ切、ワラ撒き、もみ殻燻炭づくり、草刈、落ち葉掃き、畦塗、代掻きなどを参加者親子と一緒にやってきた</p>	
	<p>(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日</p> <p>(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること</p>	

効果検証報告書

施設名	東江幼稚園
教育理念	「人と関わる力」「しなやかに動かせるからだ」「自然から学ぶ体験」を育てる

事業の区分(5領域)	健康 ・ 人間関係 ・ 環境 ・ 言葉 ・ 表現
------------	---------------------------------

1 事業名	春から冬までの田んぼ活動～①育てる②味わう③利用する～
2 事業概要	年間を通しての稲作活動。①「育てる」種まき、育苗、草取り、田植えから稲刈りをして、脱穀、などの育てる活動②「味わう」収穫した米を食べる 活動(おにぎり、お餅、米粉菓子)③「利用する」収穫後の藁を使ったしめ縄作りを通して日本文化を体験する。

計画時	3 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 流山市に300坪の田んぼを借りている。 理事長、園長および事務兼用務職員が農業経験があり指導できる。
-----	--------	--

事業後	3についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 指導できる職員が複数いて、実際の作業も園職員中心で行った。全て幼稚園の職員主導でできる田んぼ環境だったため、教育優先で使うことができた。(収穫量よりも、子どもたちが植えやすい間隔で田植えができたり、収穫時にも効率関係なく、より多くの子が怪我無くできるように広々と場所を使うことができた。)
-----	-------------	--

計画時	4 事業のねらい	日本人の主食であるお米の栽培を通して、自然の営みに関心を持つ。 土や植物に触れて自然の循環や生態系、様々な昆虫などについても知ることで学びにつながる。 また、しめ飾りや餅つきなど日本人の文化に関わり関心を持つようになる。
-----	----------	--

事業後	4についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 田植え、稲刈りだけでなく、しめ飾りづくり、餅つき、など計画通りに進めることができ、園児および保護者に体験を通して、稲作や農作業、食べ物づくりを知ってもらうことができた。
-----	-------------	--

事業後	5 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等 自分たちだけで稲作を行える環境がある。完全無農薬、無化学肥料で稲作を行うことで、稲の栽培だけでなく、様々な生き物に出会える。また種籾から 収穫までの過程を知る。収穫後のお米を食べる。餅をつく。餅を食べる。しめ飾りを作る。 3月：園庭で種まき。田んぼの代掻き4月：園庭で育苗5月：田植え6、7、8月草取り9月稲刈り10月脱穀、収穫祭11月米粉利用し菓子作り12月：しめ縄作り1月鏡開き(希望者家族を募って5～8月田んぼの草取り、10～2月耕運田起し等農作業) 稲作について園児が全員で関わるのは種まき、育苗、田植え、稲刈りである。特に田植え、稲刈りは大型バスを出して、田んぼに実際に行く。
-----	---------	---

事業後	5についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 田植え、稲刈り、以外の草取り作業、耕運作業、そのた田んぼ仕事を「田んぼカフェ」という名称で、年間通して行ったことで、興味関心がある家族は年間を通して参加しより深く体験できた。
-----	-------------	---

計
画
時

6 環境構成	幼稚園で種まき、育苗を行う。 流山市の田んぼで田植え、稲刈りをはじめとする稲作活動をする。同時に昆虫採集をすることができる。 園からもライブカメラで稲の様子を確認できる。 収穫後はお米を使った食育活動を園で行う(餅つき、鏡餅作り、しめ縄作り)
--------	--

事
業
後

6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 今年度は稲の生長時期には、補助金交付決定が間に合わなかったのでライブカメラ設置は間に合わなかった、今年は職員がこまめに田んぼに行き写真を撮って、園児たちに稲の生長の様子を伝えた。稲刈り後の稲干し、脱穀、もみすり、しめ飾りづくり、餅つきはすべて幼稚園内(園庭)で行えたので、より身近に稲作、お米を感じることができた。
-------------	--

7 期待される効果 児童の姿	取組を通じて期待される児童の姿や効果等 ----- 普段から食べている食の主役「米」を知ることができる。種まきから育てるまでのプロセスを通して、自然の循環や農業の重要性を学ぶ。また、食文化や食の大切さについて及び日本文化についても学ぶことができる。
-------------------	--

事
業
後

7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 ----- 稲刈りの経験から、粳の存在を知る子が多かった。自分たちで洗米、炊飯して、おにぎりを握った時には、いつもの1.5~3倍くらいご飯を食べた。食の大切さを学んでいた。
-------------	---

8 効果検証 総括	事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて ----- 外部の農家さんにお任せではなく、種まきから、田植え稲刈りまで、および、そのごの餅つきなどまで、法人の教職員中心に、園児の保護者や卒業生の保護者も一緒に稲作作業を行うことができた。園内ですべて行えるので、単発の行事ではなくて、継続して日々の生活に取り入れながら、稲作経験、収穫して食べる経験を行うことができる。 田植え、稲刈り体験だけでなく、おにぎりづくり、しめ飾りづくり、など1年間通じて食のことも日本文化的なことも様々な体験ができた。
--------------	--